

町田市特別支援教育ハンドブック

# 学級担任・教科担任向け版

全ての児童・生徒にとって  
わかりやすい授業の実践

2024年3月  
町田市教育委員会

## 目 次

I 通常の学級における特別支援教育	4
1 町田市における特別支援教育	
2 通常の学級の授業で行う特別支援教育	
II 子どもたちが授業で感じていること	6
1 授業についてのアンケート実施	
III 誰にとってもわかりやすい授業づくり	11
1 自分の授業をUDの視点で振り返る	
2 今すぐできる授業改善に取り組む	
視点1 学習環境・生活環境を整える	
視点2 学習にひきつける	
視点3 価値ある関わり合いをつくる	
視点4 集団の中で個に配慮する	
IV 子どもを理解するアセスメント	25
1 アセスメントの内容	
2 子どもの行動の要因となっていることをつかむ	
V こんなときどうする（個別指導）	27
ケース1 読みが苦手な子ども	
ケース2 書きが苦手な子ども	
ケース3 集中が続かない子ども	
ケース4 感情のコントロールが苦手な子ども	
ケース5 忘れ物が多い子ども	
ケース6 他者理解・状況理解が苦手な子ども	
VI 障がい特性と知能検査の理解	33
1 3つの発達障がい	
2 障がいによる要因の違い	
3 知能検査・発達検査	
VII 学級担任等が行う望ましい連携	39
1 校内委員会の活用	
2 保護者との連携	

## 注釈

# 学級担任・教科担任の先生方へ

令和4年度の文部科学省の調査（※1）で、通常の学級に在籍している学習上・生活上で特別な支援を必要とする児童・生徒の割合は、8.8%という数値が出ました。

30人学級でいうと2～3名という人数になりますが、学級担任・教科担任の先生方は、実際にはもう少し多いという実感をもっているのではないのでしょうか。

また、この8.8%のうち、通級による指導を受けている児童・生徒の割合は1割程度です。少人数や個別の時間による指導が必要な現状がありながらも、校内委員会の効果的な運用や、保護者との連携などの課題が、進まない要因になっています。

通常の学級に様々な特性がある児童・生徒が在籍する中で、どのように授業を展開すればいいのか・・・、先生方からの「ヘルプ」の声はますます大きくなっています。

この現状を受けて、教育センターでは「学級担任・教科担任向け」のハンドブックを作成しました。このハンドブックには、先生方が日々の授業をつくっていく上で、ヒントになる環境設定や指導方法を載せています。2020年4月に全教員に配布した「町田市特別支援教育ハンドブック」と併せて、知識・理解を進め、授業改善に役立ててください。

すべての児童・生徒にとって、学ぶことが楽しいものになることを願っています。

—文章上の表記について—

- 町田市では、「ひと」に関して使用する場合は、「障害」を「障がい」と表記しています。  
ただし、法令等、医学会マニュアル、施設・団体等の固有名詞については変更しません。
- 次ページ以降、学級担任という言葉には教科担任も含まれます。
- 児童・生徒という言葉は、文章表現の工夫上、「子ども」という言葉を使っている箇所があります。
- （※）の付いた用語は、42ページ以降に注釈があります。

## I 通常の学級における特別支援教育

# 1 町田市における特別支援教育

特別支援教育とは、簡潔に言えば、「子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うこと」となります。

現在、すべての通常の学級に、特別な教育的支援が必要な児童・生徒が在籍している可能性があります。また、中には、障がいの程度の重い児童・生徒が在籍している学級もあります。

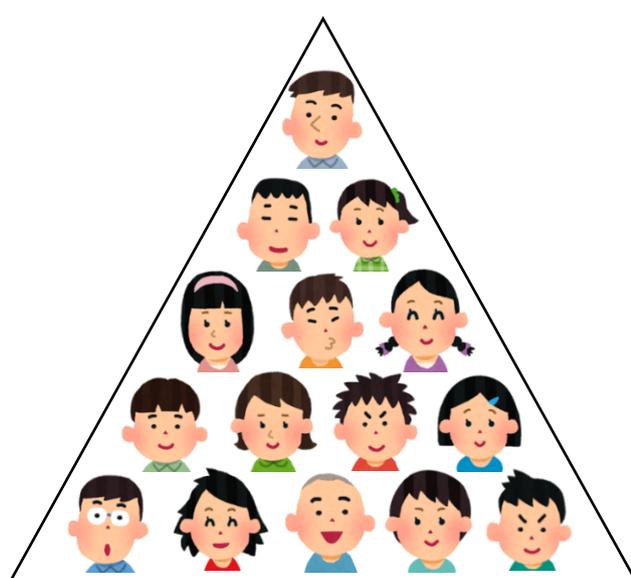
学校全体、外部機関の支援を適切に得ながら、通常の学級における特別支援教育の進め方を明らかにすることが、町田市においても喫緊の課題と言えます。

町田市が考える「通常の学級における特別支援教育の全体像」は以下のようになります。

<支援レベル1>…一斉授業や活動を進める中で、学級担任が、つまずきがある児童・生徒に対して、専門家の助言や家庭での協力を得ながら支援をしていきます。

<支援レベル2>…一斉授業や活動を進める中で、つまずきのある児童・生徒に対して、校内や校外の人材を活用して支援していきます。それらを通して、支援レベル3につなげる必要性を見極める段階でもあります。

<支援レベル3>…該当の児童・生徒は、週2時間程度、サポートルーム（特別支援教室）における指導・支援を受けます。支援レベル1または2を行う通常の学級担任と、サポートルーム担任の綿密な連携が必要です。



<通常の学級>

## <支援レベル3>

・サポートルームでの特別な指導・支援等

## <支援レベル2>

・支援員や学生ボランティアなど校内外の支援を活用

⇒町田市発達支援ルーム(※2)の活用

・保護者と支援内容の合意形成・協力要請

## <支援レベル1>

・学級担任による指導・支援

⇒町田市特別支援教育ハンドブック(※3)の活用

⇒授業リーダー制度(※4)の活用

・アセスメントシートの活用

・市や校内の助言者に見立てを依頼

⇒保護者と協働し、協力要請

# 2 通常の学級の授業で行う特別支援教育

児童・生徒が学校生活を送る中で、最も多くの時間を費やしているのは「授業」です。

この「授業」の中で、どれだけ「参加できた」「わかるようになった」「自分にもできた」などの達成感をもたせられるかが、教師の使命とも言えます。

しかし、通常の学級で行う授業の中で、特別な教育的支援が必要な子どもだけに特化した支援を行うのは、大変難しいことです。全体指導を進める中で、個にかけられる時間や指導には限界があるからです。

まず、学級担任に求められることは、全体指導をすすめる中で個を育てるという視点に立ち、  
『 誰にとってもわかりやすい授業を展開すること 』だと言えます。

特別支援教育とは、「個別に支援すること」のみを指していません。

特別支援教育 ⇒ 個別的な支援 ▲



誰にとってもわかりやすい授業

○通常の学級における特別支援教育の最優先は……

**わかりやすい授業づくりの実現です**

(環境面の調整、学習にひきつける工夫、個への配慮等)



教師が気になる子ばかりに目を向けていると……

- ・教師が、気になる子の対応に追われていて、課題を終えた子たちが待ちくたびれています。(⇒姿勢崩れ、手遊び、おしゃべり、立ち歩き・・・が起きている)
- ・教師の指示や説明をしっかりと聞いて静かに取り組んでいる子たちが、ほとんど教師から言葉をかけてもらっていない状態が生まれます。
- ・子ども同士の中で、「励ます言葉」「良さを認め合う言葉」よりも、注意や命令、指摘、批判の言葉が多くなります。さらに、教師からの褒め言葉も少なくなります。



これは危険です！！

教師間の会話の中で、「あの子は難しい」「言ってもわからない子だ」「服薬が必要だよ」などの一言が、実態の捉え方に大きく影響してしまう場合があります。本来は通常の学級で成長できる子どもであるにもかかわらず、特別支援学級等への入級や転籍の話ばかりが優先されていることはないでしょうか。

まずは、多くの目で丁寧にアセスメントをして、学級担任としてできることを行いましょう。



## Ⅱ 子どもたちが授業で感じていること

# 1 授業についてのアンケート実施

## (1) アンケートの概要

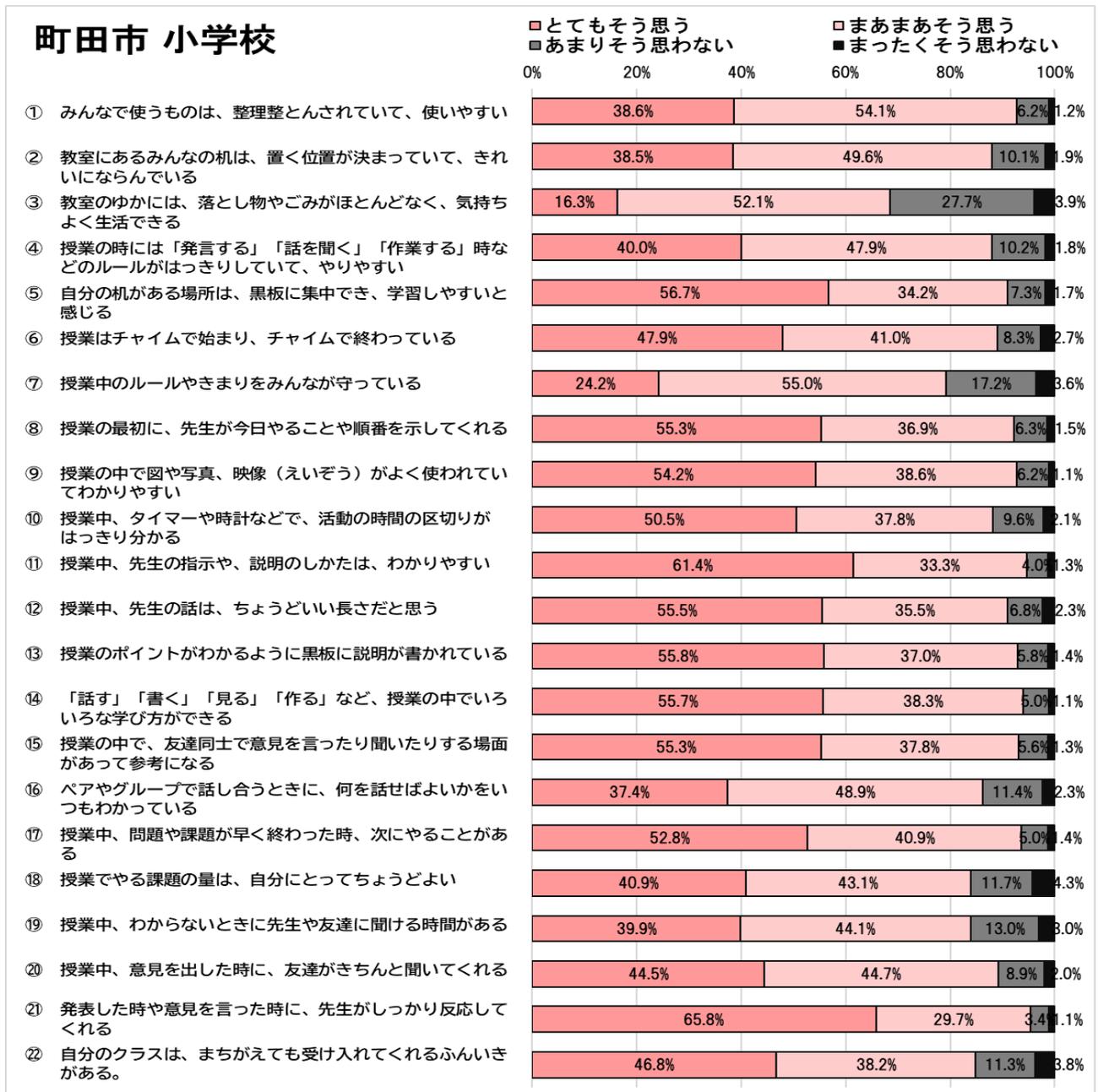
わかりやすい授業に向けた教師の指導について、子どもたちが実際にどのように感じているのかを捉えるため、町田市内の全小中学校に対してアンケート調査（※5）を実施しました。

■対象 小学校 4・5・6年生 中学校 1・2・3年生

■方法 Google フォームにて回答 児童 9679人 生徒 8622人から回答

■実施時期 2023年7月

## (2) アンケート結果と考察



小学校の結果として、「とてもそう思う」の回答が高かったものを順に挙げてみます。

- ⑫ 発表したときや意見を言った時に、先生がしっかり反応してくれる。(65.8%)
- ⑪ 授業中、先生の指示や、説明のしかたは、わかりやすい。(61.4%)
- ⑤ 自分の机がある場所は、黒板に集中でき、学習しやすいと感じる。(56.7%)
- ⑬ 授業のポイントがわかるように黒板に説明が書かれている。(55.8%)
- ⑭ 「話す」「書く」「見る」「作る」など、授業の中でいろいろな学び方ができる。(55.7%)
- ⑫ 授業中、先生の話は、ちょうどいい長さだと思う。(55.5%)
- ⑧ 授業の最初に、先生が今日やることや順番を示してくれる。(55.3%)
- ⑮ 授業の中で、友達同士で意見を言ったり聞いたりする場面があって参考になる。(55.3%)

※先生が項目の実践を「やったりやらなかったり」ではなく「常に行っている」と、児童が感じていれば、「とてもそう思う」を選択すると考えました。特別支援教育の日常的な実践という意味から、今回の分析は、「とてもそう思う」の数値に着目しました。

上位 8 つの中の 3 つに⑫⑪⑫があり、児童の学習意欲に直接つながるような教師のコミュニケーション技術が、高い評価を得ていることがわかります。

また、⑤は学習環境、⑬は教師の説明技術に関するものですが、どちらも、多くの時間を黒板を見て過ごす児童にとっては重要です。



次に、否定的回答の割合が高かったものを順に挙げてみます。

- ③ 教室のゆかには、落とし物やごみがほとんどなく、気持ちよく生活できる。(31.6%)
- ⑦ 授業中のルールやきまりをみんなが守っている。(20.8%)
- ⑱ 授業でやる課題の量は、自分にとってちょうどよい。(16.0%)
- ⑲ 授業中、わからないときに先生や友達に聞ける時間がある。(16.0%)
- ⑳ 自分のクラスは、まちがえても受け入れてくれるふんいきがある。(15.1%)
- ⑯ ペアやグループで話し合うときに、何を話せばよいかをいつもわかっている。(13.7%)

③は学習環境に関するもので、3割以上の児童が否定的回答をしています。

⑦の「授業中のルールやきまり」については、集団指導を成立させるための大切な項目ですが、否定的回答の割合が2割を超えています。また、「みんなが守っている」ことに対して、「とてもそう思う」と答えた児童も、3割に達していないという結果になりました。

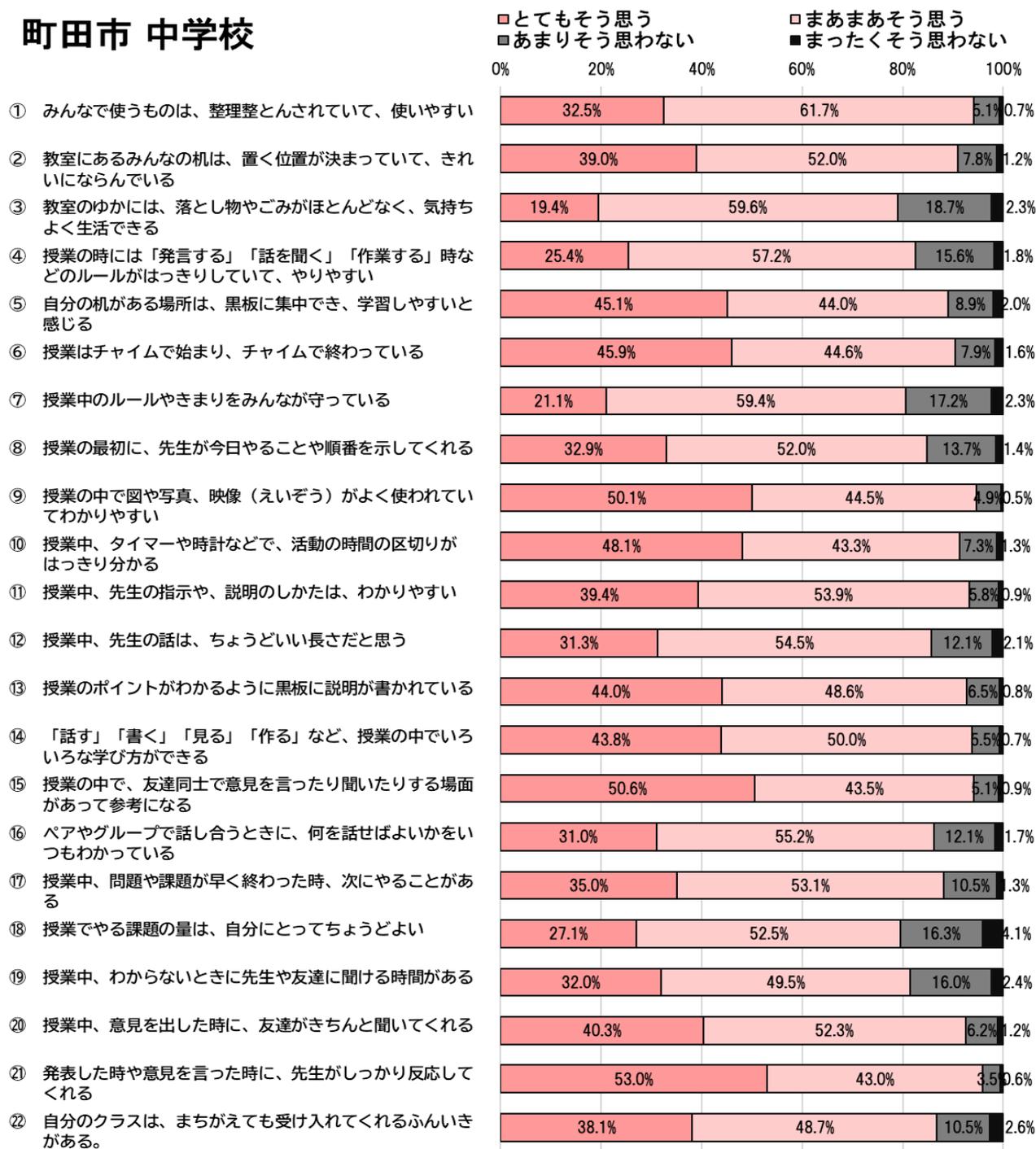


⑱⑲は、課題の量や授業の展開の速さに困り感をもっている児童が、2割弱いることを示しており、学習の遅れにつながっていくと予想できます。



⑯の「ペアやグループでの話し合い」は、集団学習の良さとして授業での活用頻度が多いものです。否定的回答の割合は1割程度ですが、「とてもそう思う」と答えた児童は4割を下回っています。活発な意見交流を目指してグループ活動を取り入れたとしても、やることが、「常に確実に」わかっている児童は、半分程度しかいないということになります。

## 町田市 中学校



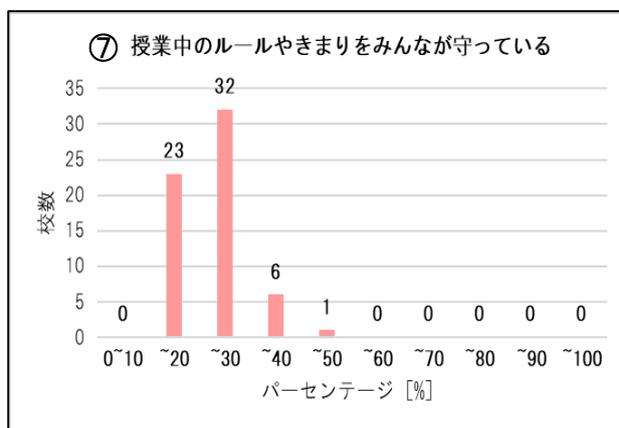
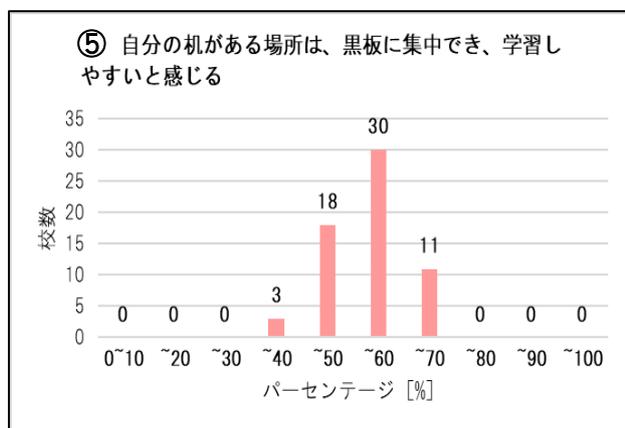
中学校の結果として、「とてもそう思う」が5割を超えているのは、次の3つでした。

- ㉑ 発表した時や意見を言った時に、先生がしっかり反応してくれる。(53.0%)
- ⑮ 授業の中で、友達同士で意見を言ったり聞いたりする場面があって参考になる。(50.6%)
- ⑨ 授業の中で図や写真、映像がよく使われていてわかりやすい。(50.1%)

小学校と同様に、㉑が最も高いことは、生徒との関係づくりの軸であるところに、高い評価を得ていることがわかります。また、中学校では、⑨の図や写真、映像の活用という視覚的支援に力を入れていて、「まあまあそう思う」を合わせると、小学校よりも高い数値になっています。

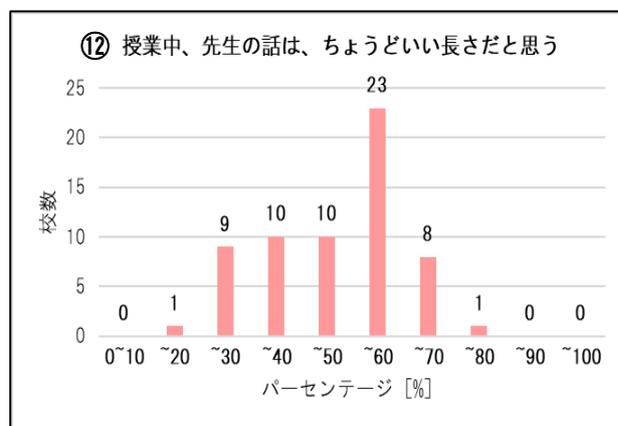
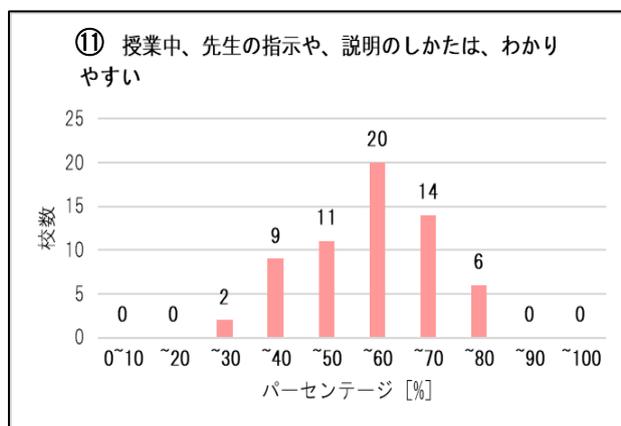
⑪の「先生の指示や説明のわかりやすさ」という項目が、小学校では6割以上の児童が、「とてもそう思う」と答えているのに対し、中学校では4割を下回っています。

以下のグラフは、質問項目に対して「とてもそう思う」と答えた児童・生徒の学校ごとの割合を横軸にして、パーセンテージの区域に62校中何校含まれているかを縦軸で表したものです。例えば、⑤の項目について、「とてもそう思う」と答えた子どもの割合が50%より多く60.0%以下の範囲だった学校が、30校であったということです。



全体的にグラフは「山」の形になっています。左上の⑤のグラフは、①～⑦の学習環境に関する質問の中で、児童・生徒の評価が高かったものです。それに対して、右上の⑦のグラフは山が大きく割合の低い方に寄っていることがわかります。

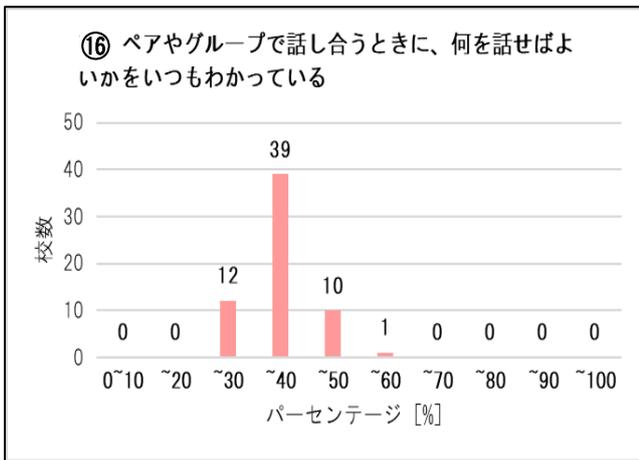
集団で行う授業においてルールや決まりが成立することは、誰もが気持ちよく学習をしていくための視点からも、ユニバーサルデザイン（※6）の視点からも、必須な事柄です。14ページ以降に具体的な手だてを紹介するとともに、校内外の研修の工夫も必要です。



⑧以降のグラフの中に、山の形になっていないものや、山の幅が大きいものが複数見られます。これらは、学校や担任によって、指導の差が大きいものと考えられます。

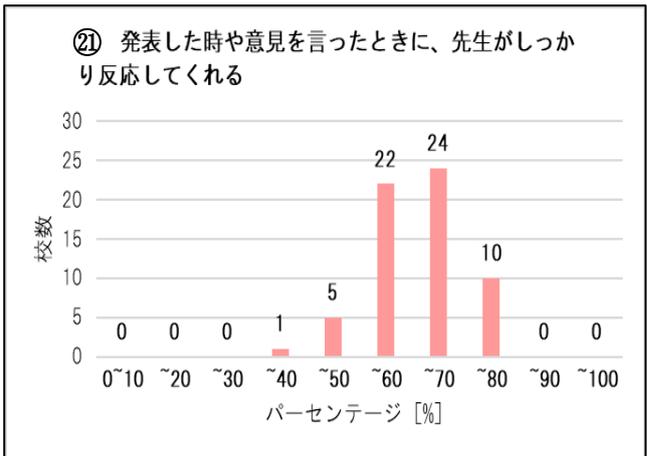
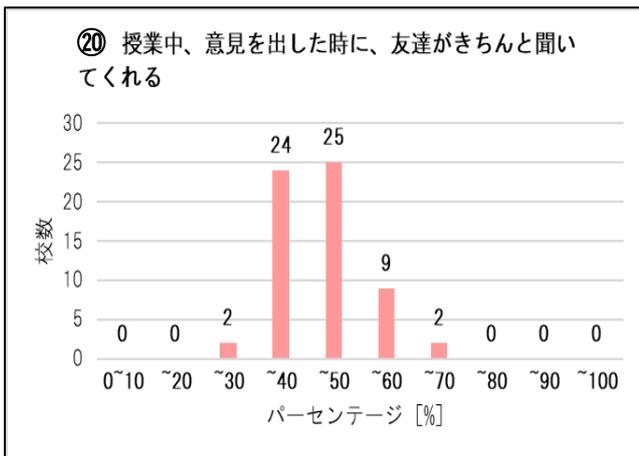
上に挙げた「指示や説明のわかりやすさ」や「ちょうどいい話の長さ」については、特に形の横の広がりが目立ちました。理由として、視覚的に評価しにくいことや、児童・生徒の感じ方・捉え方に幅があることが考えられます。一方で、このような明確にしにくい指導方法や指導技術に関するものは、これまで、教師個人の能力や経験に頼ってきたところがあります。

誰にとってもわかりやすい授業を、すべての教師が実現するためには、具体的な指導の手だてを共通事項として示し、指導の標準化を図っていく必要があると考えます。



⑩の「ペア・グループ活動を行う際の活動内容の明確化」については、低い方に尖った山の形になりました。活動をする際の指示や配慮を、教師が十分にしていないことが、子どもたちの回答に表れています。

実際に授業を参観すると、話し合いに参加できていない子どもを見るのが少なくありません。対話的な学びを成立させるためには、活動の目的や個々の役割を明確にするような教師の準備が必要です。



⑫の「子どもの発信に対する教師の反応」については、小・中学校とも最も評価が高かったものです。しかし、同じような発信の場面における仲間の受け止め方については、20ポイント下がっている状況です。集団授業の良さである対話的な学びには、子ども同士の関係づくりへの指導が必要であることが浮き彫りになりました。



### (3) わかりやすい授業づくりに向けて

アンケート調査の結果から、引き続き行う授業の工夫として、「教師の反応や即時評価」「バリエーションのある学び方」「視覚的な支援」などが挙げられます。また、以下のことについては、指導についての現状や要因を分析し、学校全体で対応を考える必要があります。

- ① 授業を成立させる基盤として、「授業におけるルールづくり」と「ルールを守ろうとする集団づくり」をすること
- ② 子どもたちが安心して授業に臨めるように、各場面で見通しを示すこと
- ③ 個に応じた「課題の量」や「疑問を解決する場」を確保すること
- ④ 「説明のしかた」「ちょうどよい話の長さ」「活動内容の明確化」など、わかりやすさにつながる教師の指導技術を高めること

◎授業改善の具体的な方法については、次ページ以降に掲載しています。

# Ⅲ 誰にとってもわかりやすい授業づくり

## 1 自分の授業を UD の視点で振り返る

\*UD とは「ユニバーサルデザイン」のこと。

### これまでの授業スタイルを見直してみませんか

さまざまな特性のある子どもが一つの学級に在籍する現状においては、これまでの「当たり前」を見直し、どのように全員を活動の土台に乗せるかという視点をもつ必要があります。

#### 【例1】教師が指名した子どもに発表させて進める授業



先生「このグラフを見て、気付いたことはありますか？」

- ・数名が挙手したので A さんを指名する。その後、「他にはありますか？」と問い、挙手した B さん、C さんを指名する。

先生「いいところに気付きましたね、確かに気候と関係が深そうだね」

気付きや考え、書いたことなどを表出する場において、小学校では『子どもが挙手する』『指名された子が答える』という進め方をよく見かけます。中学校では、挙手は減りますが、やはり生徒の数名に指名しながら、発表や答え合わせをしていく場面は多いようです。

しかし、このような進め方には以下のような問題点が隠れているのではないのでしょうか。

- ・発言者以外の子の活動は「聞く」です。退屈になって、授業に集中できなくなります。
- ・発言をしない子たちが、理解できているかどうかは確認できません。
- ・つまずきのある子が、何もできずにいる状態が続きます。
- ・いい気付きや考えをもった子がいても、共有できないまま終わります。



1 単位時間で、「話す」「聞く」「読む」「書く」「見る」「考える」「触れる」などの経験を子どもたち一人一人にどのくらい経験させているだろうか・・・と振り返ってみましょう。

例のような授業をしていると、個々の活動量の差はますます広がっていきます。

 **どうすればいいの？** ⇒ 20 ページ 2-⑦「全員が参加できる学習活動を設定する」へ

#### 【例2】社会科見学や校外学習後の子どもの能力に任せた表現活動

校外学習に出かけた後や、調べ学習の表現の段階で、1 枚の紙にまとめる学習を個別で行うことがよくあります。そのとき、書くための材料や資料はあるのに、書き始めることができない子どもがいます。学級担任は、支援の言葉をかけますが、なかなか進められません。

実は、「まとめる」ということは、かなりの能力が必要なのです。

紙面を構成する力・必要な情報を選択する力・文章を要約する力・字を真っすぐに書く力  
人に伝わる言葉に置き換える力・図や絵を模写する力・縮小や拡大をする力など

同じ白い紙を配られ、「はい、書きましょう」と言われても、特別な支援を必要とする子どもにとっては、明らかに厳しいことが想像できることでしょう。



 **どうすればいいの？** ⇒ 23 ページ 4-①「指導の個別化を図る」へ

### 【例3】目立つ子に偏りがちな教師からの称賛

集団に対して授業をしていると、指示と違うことをしていたり、取り組まなかったりする子どもに、教師が支援をする場面が多くなります。そして、その子が少しでも成長すると、称賛の言葉をかけるので、結果として他の子よりも多く関わることになります。

これが繰り返されたとき、日頃から教師の指示を聞いて黙々と取り組んでいるのに、言葉をかけられない子どもたちはどう思うでしょうか。

認められたい、褒められたいという感情は、どの子も同じようにもっています。評価の機会はできるだけ平等でありたいものです。



どうすればいいの? ⇒ 24 ページ 4-④「個に寄り添った評価をする」へ

## まず、自分の授業の振り返りをしましょう

\*シート内の○と優先順位は見本例です。

UD 授業振り返りシート (学級担任版)		実践でき ている 4 3 2 1	実践でき ていない	優先 順位	関連する 手だて
1	みんなで使うものは、整理整頓している	□○□□			1-①
2	教室にある机は、置く位置が決まっていて、きれいに並べている	○□□□			1-①
3	教室の床には、落とし物やごみがほとんどない状態にしている	□○□□			1-①
4	授業の時に「発言」「聞く」「作業」時のルールを示している	□○□□			1-②
5	子どもの実態に合わせた座席の配慮をしている	□○□□			1-③
6	授業はチャイムで始まり、チャイムで終わっている	○□□□			2-①
7	授業中のルールやきまりを子どもたちに守らせている	□□□○		1	1-④⑤
8	授業の最初に、今日やることや順番を示している	□○□□			2-①
9	授業の中で図や写真、映像を効果的に使っている	□○□□			2-②
10	授業中、タイマーや時計などで、活動の区切りをはっきり示している	○□□□			2-①
11	授業中、分かりやすい指示や説明のしかたを工夫している	□○□□			2-②③
12	授業中、子どもにとってちょうどいい長さで話している	□○□□			2-③⑤
13	授業のポイントが分かるように黒板やスクリーンに説明を書いている	○□□□			2-②
14	「話す」「書く」「見る」「作る」など、いろいろな学び方を入れている	□○□□			2-④⑤
15	授業中、友達同士で意見を言ったり聞いたりする場面をつくっている	□○□□			2-④⑦
16	ペアやグループで話し合うときに、ゴールや方法を明確に示している	□□□○		2	3-①②
17	授業中、問題や課題が早く終わった子どもに次にやることを示している	□□○□		3	4-③
18	授業でやる課題の量を、子どもの実態に合わせている	□○□□			4-①③
19	授業中、分からないときに教師や友達に聞ける時間を設定している	□○□□			4-③⑤
20	授業中、意見を出した時に友達がきちんと聞くような指導をしている	○□□□			1-④
21	子どもが発表した時や意見を言った時、適切な反応をしている	○□□□			2-⑥
22	まちがえても受け入れる雰囲気の日頃からつくっている	□○□□			3-③④
23	全ての子どもが参加できる活動を随所に取り入れている	□□○□		4	2-⑦
24	個々の学習状況に合わせた教材やプリントを用意している	□○□□			4-①②
25	「できていること」「取り組もうとしていること」を即時評価している。	□○□□			4-④

\*1 から 22 までは、子どもたちにとってアンケート項目。23 から 25 までは、UD の視点として加えたもの。

## 授業改善の優先順位を決めましょう

- ① UD 授業振り返りシートの各項目について自己評価します。実践状況がよくわからない項目については、管理職や他の先生方の観察を通して、積極的に評価をもらいましょう。
- ② 1～2にチェックが付いた中から取組の優先順位をつけます。
- ③ 優先順位の高いものから、右欄の関連する手だてを実践します。

UD 授業振り返りシートは、ここからダウンロードできます。



## 2 今すぐできる授業改善に取り組む

### 授業づくりの具体的な手だてを紹介します

UD 授業振り返りシートの「関連する手だて」にある数字は、14 ページ以降の手だての番号とリンクしています。

【例】 1 - ③      1 学習環境・生活環境を整える → ③ 座席の位置を工夫する

- 1 学習環境・生活環境を整える……………P14
  - ① 刺激量を調整する
  - ② 授業中のルールやきまりをつくる
  - ③ 座席を工夫する
  - ④ ルールやきまりを守る集団をつくる
  - ⑤ 一人1台端末の使い方を明確にする
  - ⑥ 子どものよさが表れる掲示をする
  - ⑦ 手づくりの目標を掲げる
- 2 学習にひきつける……………P17
  - ① 活動の見通しをもたせる
  - ② 視覚的な支援を行う
  - ③ わかりやすい指示や説明をする
  - ④ 様々な活動を効果的に組み合わせる
  - ⑤ 一人1台端末を活用する
  - ⑥ 子どもの反応を適切に受け止める
  - ⑦ 全員が参加できる学習活動を設定する
- 3 価値ある関わり合いをつくる……………P21
  - ① 学び合いの目的と方法を明確にする
  - ② 個々の役割を明確にする
  - ③ 学び合いのマナーを守らせる
  - ④ それぞれの良好な関係をつくる
- 4 集団の中で個に配慮する……………P23
  - ① 指導の個別化を図る
  - ② 子どもに合わせたツールを使う
  - ③ 子どもに合わせた学習の場を用意する
  - ④ 個に寄り添った評価をする
  - ⑤ 合理的配慮を行う

## 1

## 学習環境・生活環境を整える

「すでに日常化しているもの」「今後の取組目標」など、□にチェックを入れて活用しましょう。

## ① 刺激量を調整する

学級の中には、刺激に敏感な子どもがいます。注目してほしい所に注目させるためにも、教室環境を整えましょう。

- 黒板や前の掲示板をすっきりさせる。
- 教室の床には何も落ちてない状態にする。
- 机の位置を決め、授業の前に整頓させる。
- 文房具やファイル、画用紙などは棚に整理分類して収納する。



環境づくりは教師の心がけ次第です。環境を整えることは学級経営の大事な一歩です。



## ② 授業中のルールやきまりをつくる

誰もが気持ちよく学習するためには、様々な活動を行う際のルールを決めることが必要です。学校→学年→学級の経営方針に沿い、まず担任が必要なきまりを設定しますが、子どもの考えを聞きながらつくっていくこともできます。

- きまりの必要性について子どもに考えさせる。
- 学級の経営方針に基づいたきまりやルールにする。
- 子どもにわかる行動レベルの具体的な言葉にする。

【例】△友達の考えを大事にしましょう。

○友達の発言は、だまって最後まで聞きましょう。

○次の授業の準備をしてから休み時間にしましょう。



望ましい姿勢が維持できるように机や椅子の高さを子どもに合うものにしましょう。



## ③ 座席を工夫する

子どもの実態や学習活動に合わせて座席を工夫し、授業に集中できる環境をつくりましょう。

- 身体的な課題、学力のバランス、発達の特性、人間関係などに配慮する。
- 話し合いの際には、互いの顔が見える隊形にする。
- 個別学習では、活動に集中できるように、机の向きや隣との距離を工夫する。

## ④ ルールやきまりを守る集団をつくる

誰にとっても居心地のよい環境をつくるために、子どもたちがルールを主体的に守り、互いを大切にしている関係をつくりましょう。

□なぜ、そのルールが必要なのかを、子どもたちと一緒に考える。

【例】「人の話はきちんと聞きましょう」

先生「どうして先生や友達の話は聞かないとダメなのでしょう？」

児童「次にやることがわからなくなるから」「相手が嫌な気持ちになるから」

「よくわからない・・・」

・子どもが理解しないままルールを押し付けても主体的に守ろうとしません。



□具体的な言葉で示す。

【例】「人の話はきちんと聞きましょう」の『きちんと』ってどういうこと？

・だまって聞く、最後まで聞く、相手の方をむいて聞く、自分の考えと比べながら聞くなど様々あります。子どもたちの実態に合わせて決めていきましょう。

□視覚的に示す。

・目に留まる場所に掲示する。達成できたら外すことが大切です。

□行動を認める中で定着させていく。

・できている子をすぐに褒めることが大切です。

→できていない子ばかりに注目していませんか？

・教師が自ら約束をやぶっていませんか？

→不規則発言している子に答えていませんか？



授業の開始時刻と終了時刻を教師も守りましょう。

自らが時間を守る姿が子どもからの信頼につながります。

□スタートの時期に徹底する。

【例】学年初めの1週間、学期初めの3日間



## ⑤ 一人1台端末の使い方を明確にする

子どもが自分の端末を安全かつ効果的に利用するためには、利用する際の流れやルールを明確にしておくことが重要です。学校全体で統一しましょう。

□机上の整理の仕方、端末の置き方などを示す。

・端末が机からはみ出すと、落下の要因となります。

□授業の前に端末を準備しておく。

・できるだけ授業中にラックに取りに行かせないようにします。

・使用しない時間帯はどこに、どのようにしまっておくかも指示しましょう。

□使用する際のルールを子どもと一緒に考えていく。

・ルールづくりに必要な端末についての情報を知らせ、決めたら共通理解を常にしていくようにしましょう。



□日常のかつ効果的に使用する。

・使う場面を広げていくことにより、個人の課題解決や子ども間の共有が進みます。ただし、対話の方が、互いの言葉や意見が繋がり、ねらいの達成に向けて効果的な場合もあります。活用場面を見極めていきましょう。

以下の⑥と⑦は、振り返りシートの項目と直接的に関連する手だてではありませんが、互いを認め合う関係をつくる基盤となるものです。

## ⑥ 子どものよさが表れる掲示をする

教室の掲示物は、教師の思いと共に、子どもたちの活動の足あとや一人一人のよさが見えるものにしましょう。

□互いのよさを認め合えるものを掲示する。

【例】今日の MVP、〇〇へありがとう

□学級で価値付けたいことを掲示する。

【例】ふわふわことばの木

□互いを知ることができる掲示をする。

【例】自己紹介カード、係活動カード

・同じものが貼りっぱなしにならないようにしましょう。



<小学校>

掲示物は子どもと一緒に製作することで、子どもの所属感や有用感が高まります。



## ⑦ 手づくりの目標を掲げる

一人一人の考え方や感じ方が異なる集団が、楽しい学校生活を送るために、共通の目標設定は必要不可欠です。

集団としての目標を設定したら、それを実現するために自分が行動することを決定して掲示します。

□児童会・生徒会スローガンを掲げる。

□学年目標、学級目標を掲示する。

・そのために自分はどうするか、学習や生活のめあてとのつながりがあることが望ましいです。

【例】学級目標—助け合うクラス

自分の生活のめあて—友達が困っていたら自分から声をかける。

□学校行事のめあてを掲げる。

【例】クラスの目標 「一人一人の力を出し切ろう！」

よりよい集団の中でこそ、個のよさが発揮されます！



<中学校>

## ① 活動の見通しをもたせる

学習活動の内容と順序、そして時間を示すことにより、子どもに安心感を与え、自発的な動きを生み出します。ぜひ習慣化しましょう。

□学習内容と順序、ゴールを提示する。

【例】単元や1単位時間の流れ、いつまでに何を

□視覚的に示す。

【例】ホワイトボード、スクリーン、黒板等

□時間の見通しを示す。

- ・動作活動であっても、集中が切れやすい子にとっては、いつまで続くかわからないと意欲が急速に下がっていきます。今は全体の中の何番目、あと何分くらいなどの見通しを視覚的に示しましょう。



## ② 視覚的な支援を行う

人は視覚（ビジョン）から80%以上の情報を得ています。子どもたちに指示・説明をするとき、視覚的支援をすることは必須事項です。教師の端末で作成した教材や、インターネット等から引いた画像・動画資料を活用し、わかりやすい授業を展開しましょう。

□活動の手順や方法、でき上がりの見本などを、言葉、図、写真、映像などで示す。

□主発問や学習課題を視覚で残す。

□黒板とホワイトボードを使い分ける。

- ・黒板部分には最後まで残したい内容を書きます。

【例】めあて、学習のポイント、まとめ他

- ・ホワイトボード部分に提示したい内容を映します。

【例】画像・動画、子どもの意見、適用問題、学習の流れ、注意事項 他

□活動のモデルを見せる

- ・個別や小集団の活動に入る前に、前で実際にやって見せたり、手本を示したりします。

【例】教師が見せる、子どもが手本を見せる  
教師と子どもが一緒に見せる  
プロや専門家が見せる



## スライド(提示資料)作成のポイント

- ① 1つのスライドに1つの内容を
- ② 言葉は短く、シンプルに
- ③ 画像や動画等の資料を
- ④ 文字色や背景色の工夫を
- ⑤ 子どもが考えるきっかけとする

ホワイトボード部分は端末を活用し、子どもの意見交流の場にしましょう。



### ③ わかりやすい指示や説明をする

話す場面が多い教師にとって、話す技術を磨くことはとても重要なことです。

□この時間のゴール（到達目標）を伝え、活動の価値付けをする。

□話すことを整理して簡潔に伝える。

【例】前置き言葉  
順序を表す言葉

ポイントを3つ伝えます  
これから理由を伝えます



1つ目は…  
2つ目は…

□活動内容がわかるような具体的な説明をする。

【例】△となりの子がどんなことを書いたか話し合ってみましょう。

○自分のノートに同じ言葉があったら、○で囲みましょう。

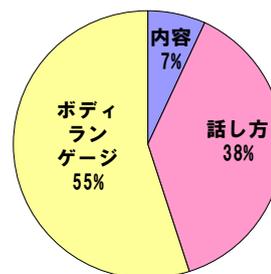
□視覚的に示しながら話す

・人は情報の80%以上を眼から得ています。聞く+視覚は有効です。

□声の大きさ、声の張り、声の抑揚、表情、身体表現などを工夫して話す。

#### メラビアンの法則を知っていますか？

聞き手の心理に影響するものとして、実は話の内容は7%ほどで、話し手の話し方（声の質、大きさ、速さ、トーン、調子、語尾など）や、ボディランゲージ（表情・視線・しぐさ・相手との距離・位置・触れるなど）が多くを占めているということです。同じ内容でも、言い方次第で、子どもへの伝わり方がだいぶ変わります。



### ④ 様々な活動を効果的に組み合わせる

学習をどのような活動形態で取り組ませるかによって、子どもの集中力と意欲に大きく影響します。



□全員が1単位時間に4つ以上の活動を経験できるようにする。

【例】「話す」「聞く」「読む」「書く」「考える」「触れる」「つくる」「観察する」など

・教師が考えている以上に、子どもは「聞く」活動時間が多くなっています。

退屈であれば、自然と学習意欲も下がってしまいます。

□動きがある活動を入れる。

【例】立つ・座る、操作する、動いて話し合う、歩いて鑑賞する……

□教科内容に関連したビジョントレーニング（★）を入れる。

★町田市立町田第二小学校が2024年2月に、町田市特別支援教育推進モデル校として、ビジョントレーニングの研究発表をしました。ホームページから研究紀要をダウンロードできます。各学校にも一部あります。

★詳しく知りたい場合は、教育センターの特別支援教育・人材育成アドバイザー（ビジョンアセスメントトレーナー）に問い合わせてください。学校向けの研修会も行っています。



## ⑤ 一人1台端末を活用する



「どのように ICT を取り入れるか」ではなく、ICT があることを前提とした授業づくりを心掛けましょう。

- Classroom を活用し、全体で説明する時間を減らし、机間指導の時間を増やす。  
【例】説明内容や、繰り返し使用する図などを掲載する。
- 学習ドリルソフトの進捗状況をリアルタイムで確認し、状況に応じた支援を行う。
- グループで1つのファイルを共同編集する、他の人のファイルを開覧する。  
【例】スライドでグループ毎にページを分け、他の人の作品にコメントをつける。
- アンケートの回答や実験結果等を、即座に集計・グラフ化する。  
【例】フォームでのアンケート。テキストマイニングでの主要な文言の抽出をする。
- 動画や画像を活用し、視覚的にわかりやすい資料提示を行う。  
【例】学習者用・指導者用デジタル教科書、NHK for School 等学習動画サイト等。

## ⑥ 子どもの反応を適切に受け止める



授業についてのアンケート結果（P6～P8）からもわかるように、授業中に「教師がしっかり反応してくれる」かどうかは、子どもにとって関心度が高く、互いの信頼関係にもつながる、とても影響が大きい要素であると言えます。同時に、教師として常に磨いていく必要がある指導技術です。

### 傾聴する

- ・うなずく
- ・繰り返す
- ・相づちをうつ
- ・「なるほど」

### 確認する

- 「〇〇さんは、～と思ったんだね」
- 「～ということでもいいかな？」

### 称賛する

- 「その考えはするどいなあ」
- 「新しい視点からの意見だね」
- 「よく思いついたね」
- 「わかりやすい説明です」

### 問い返す

- 「〇〇はどういうこと？」
- 「なぜ、そう思ったのかな？」
- 「どの文章でわかりますか？」

### 掘り下げる

- 「それを別の視点から見ると？」
- 「もう少しくわしく言うと？」
- 「〇〇さんの言ったこと説明できる？」

### 揺さぶる

- 「これでいいの？」「〇〇を見てごらん」
- 「～ということは本当はないかな？」
- 「違う考えの人はいないかな？」

### 納得する

- 「確かにそうだね」
- 「なるほど、よくわかったよ」

\*町田第四小学校 2016・2017 年度町田市研究推進校  
「協同的に学び 考えを深める子の育成 ～つながりタイムを通して～」の研究紀要から一部抜粋

## ⑦ 全員が参加できる学習活動を設定する

誰もが参加できる授業展開を考えることが、授業者が行うべき重要な支援です。

### □全員が反応できるような問いをする。

【例1】教師が問題を出し、Aだと思ふ人は右手、Bだと思ふ人は左手を挙げる。  
30秒間に隣の人と理由を伝え合う。

【例2】問題を言う前に全員が立つ。隣の人と相談して答えが決まったら座る。



### □短時間に、仲間と関わり合いながら楽しく学習する

【例1】社会科で、4人グループで輪になって立つ。都道府県名を順番に言っていき、3周まわったら座る。5秒待って思い浮かばなかったらグループ内でヒントを出す。次時も同じ題材で実施することで苦手な子も参加しやすくなる。他に、〇〇時代の歴史上の人物、日本の川など。国語では、しりとり、「あ」から始まる言葉など。

【例2】全員立って、相手を見つけて2人でじゃんけんをする。

#### ■算数じゃんけん

指で5までの数字を出す。自分と相手の数を足して先に答えた方が勝ち。3回戦行う。



#### ■英語じゃんけん

じゃんけんをして勝った方が出したものを先に英語で言った方が勝ち。

### □一人の発表を全員が聞く形態 から 全員が話す・全員が聞く形態 へ

【例1】一人ずつ順番に丸読みしていく ⇒ 二人ペアで丸読みをする



・今、よく目にする丸読みは、読みにつまずきがある子にとって、緊張度が高く、時間がかかる割に、一人の音読量はほとんどありません。  
二人で交替しながら丸読みを行うことで、読む場所を見つけやすく双方にとって音読の練習にもなります。

【例2】短文づくりをして数人が発表する ⇒ 全員立ち、相手を見つけて伝え合う。

・教師が数名を指名して発表させる方法では、個の「話す・聞く」活動がほぼありません。全員が立って二人組で発表し合う形態にすると、伝え合いの中で様々な言葉の使い方を学ぶことができます。  
行う前には、教師と子どもでモデルを見せましょう。口頭による説明よりわかりやすく、一定の規律を保ちながら楽しく活動できます。

### □協働的探究学習の中で、非定型問題に取り組む (町田第一中学校の実践)

【例1】理科「気象の仕組みと天気の変化」



・非定型問題を『この単元で解決したい問いを立てよう』とし、ジャムボードを活用して班ごとに問いを分類して発表・共有しました。フォームで個人の解決したい問いベスト3を選び、授業の中で「問い」を解決していく見通しをもたせました。台風はどこでできるのか、天気予報はどうやっているのかなど、様々な問いが生徒から出され、誰もが問いを解決していくワクワク感を生み出せました。

【例2】保健体育「水泳」

・非定型問題を『楽に泳ぐために最適なストローク数とはどれくらいだろうか』とし、個別探究として、「ストローク数を20前後にするために必要なことは」を実際に泳ぎながら考えさせました。協働探究として、2人1組のペアになりキックとストロークのポイントを再確認しながらお互いの課題を指摘し合いました。最後に全体で課題とその解決方法を共有しました。生徒全員が体験しながら学習に意欲的に取り組みました。



## ① 学び合いの目的と方法を明確にする

友達の考えを聞きながら学ぶことは、子どもたちも有意義だと感じています。ペア学習やグループ学習において、何のための活動なのかをはっきりさせた上で取り組ませることが重要です。

□人数は学習内容や経験に基づいて適切に設定する。

【例】ペア、3人、4人など

□学び合う目的を明確にする。

【例】「それぞれの考えを交流する」  
「共通点や相違点を比較する」  
「考えを一つにまとめる」他



□学び合いの方法を確認する。

【例】司会や記録等の役割を分担し、話し合いを進行する。  
思考ツールやICT機器を活用し、互いの考えを共有する。  
目的に応じて話し合う人数や座席の隊形を決めて活動する。

□学び合う価値のある題材を選定する。

【例】ねらいにそった題材であるかを確認する。  
身に付けたい資質・能力を明確にする。  
子ども自身が学びたい課題を設定させる。

話し合いの形式をとることで、対話的な学びになっていると勘違いしがちです。子どもたちを迷わせないように、また、必然性のある課題を選びましょう。



## ② 個々の役割を明確にする

グループの話し合いになったときに、どのタイミングでどのように参加すればよいのかを迷っている子がいます。それぞれに役割をつくることで、能動的に参加することができます。

□司会役をつくり、進行方法を全員で確認する。

【例】順番に指名する、自由に議論し随時まとめる

□一人一役を決めて、話し合いごとに役割をまわす。

【例】司会 進め方を示す、進行する、意見を引き出す、意見をまとめる  
記録 要点を書き留める、不明なことを聞き返す  
発表に向けてまとめていく

タイムキーパー 時間を計る、タイムコントロールをする、時間配分を変更する

見守り 論点がずれないようにする、論点を確認するように促す

アイデアマン 様々な角度からアイデアを出す、場の空気を温かくする

発表者 話の内容を整理して発表する、自分の言葉で話す



### ③ 学び合いのマナーを守らせる

学び合いを進める際には、最低限のルールを守る必要があります。楽しく学習をするための「配慮」を身に付けさせましょう。

□表現の仕方を考えさせる。

- ・言葉遣い、表情、態度などに配慮できるように促します。

□情報発信のマナーを考えさせる。

- ・発信元や発信先、個人情報保護、著作権などに配慮させます。

□相手の立場を考えさせる。

- ・学び合う上で相手の考えをまずは受け入れる姿勢を身に付けさせます。

□具体的な事例をもとにして実践的に学ぶ

- ・「GIGA ワークブックとうきょう」（旧 SNS 東京ノート）を活用しましょう。



### ④ それぞれの良好な関係をつくる

#### <子ども同士>

子ども同士で良好な関わり合いをつくっていけるように、関わり方のモデルを示したり、言葉の使い方を一緒に考えたりするなどの適切な支援が必要です。

□相手を気遣う行動、声かけを普段から奨励する。

□トラブルが起きた時、なぜ起きたか、どうすればよかったか、それらを双方に考えさせる。

□子ども同士での活動の場は段階的に準備する。

□簡単で楽しい関わり合いから少しずつ挑戦できるようにしていく。



#### <教師と子ども>

教師と子どもの信頼関係を構築していくことの第一歩は、子どもの話を聞くこと、子どもの言動を認めることです。授業の中で実践していきましょう。

□多様性を尊重する。

□子どもの適切な行動に着目し、よいところを認める、褒める。

□子どもの不適切な行動には毅然と対応するが、注目しない。

□ネガティブなワードをポジティブなワードに言い換える。

□サインを見逃さないように、会話やアンケートなどを工夫する。



#### <教師同士>

子ども同士で良好な関わり合いをつくっていくには、教師全体の共通理解や、意図的で計画的な指導や支援をする必要があります。

□子どもの頑張りや努力を認め、教師の間で共有している。

□トラブルが起きた時の背景や原因について、教員間で共有している。

□子どもの成長のために、授業や行事を協力して準備をしている。

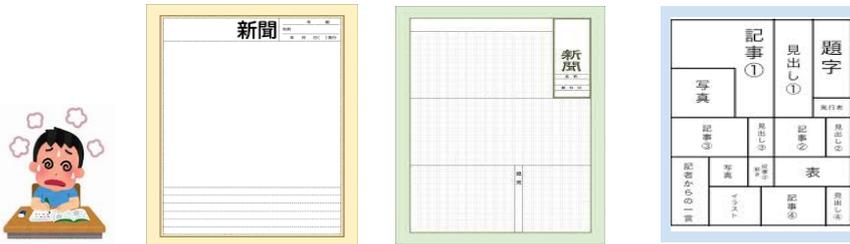
## ① 指導の個別化を図る

教師が、子どもの特性や学習到達度等に合わせた教材や課題シートを準備することで、一人一人が意欲的に学習に取り組むことができます。

□一人一人の得意を生かし、苦手を補うワークシートを用意する。

【例】社会科新聞の枠を学習者が選べるようにする。

- ・枠があることで見通しがもてて安心できる子どもがいます。
- ・文章よりも絵や図で表現することを得意とする子どももいます。



【例】短文を書くための国語のワークシート

- ・縦線だけのシート、マス目が一部入ったシートを用意して、子どもの実態に応じて、個別に配布します。子どもに理由をきちんと伝えます。

□学習ドリルソフトを活用し、複数の課題から習熟度等に応じて選択させる。

□探究の学習で、課題例をあげて選択できるようにする。

【例】総合的な学習の時間「海外からの友人に東京の見どころを伝えよう」

- ・第一段階の調べ学習を全員で行い、たくさんの情報の中から、見どころを絞る。見どころについて何を調べればよいのかも、全体で明らかにする。情報が整理されていると、子どもは選択しやすくなります。

何気なく白い紙を配布していますが…。実は、紙面の構成力  
事柄を選択する力  
文章を要約する力  
真っすぐに書く力  
図や絵を模写する力  
縮小・拡大する力  
など、かなり高度な力が求められます。  
子どもの混乱を理解し、支援しましょう。



## ② 子どもに合わせたツールを使う

今まで、ノート・ワークシート・鉛筆で活動を行っていたものを、デジタルツールに置き換えていくことが、子どもによっては有効な手だてとなることがあります。

重要なのは、従来の方とらわれず、子どもが自分の特性を理解した上で、将来的にツールを選択できるように育むことです。

□ノートの記録をドキュメントで行う。

- ・鉛筆でノートに書くことに時間がかかる、書くことが苦手なために取り組まない子どもにとって有効な支援となります。

□マルチメディアデイジー教科書（※7）等を用いて、読み取りの支援を行う。

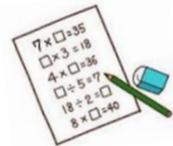
- ・これを用いることでテキストの読み上げを実施でき、漢字の読みが苦手な子どもや、行間を追うことが苦手な子どもの支援とすることができます。

□外国籍の子どもにブラウザの翻訳機能を活用させる。

### ③ 子どもに合わせた学習の場を用意する

学びやすい場や取り組み方のペースは、子どもそれぞれに異なっています。  
1つの授業の中で複数の流れを組み合わせた授業が可能になります。

- 子どもに合わせて、課題の量を調節する。
- 早く終わった子どもが取り組めるプリント集を予め準備しておく。
- 質問が気楽にできる場や時間の設定をする。
- Classroom 等で課題を明示し、自分のペースで取り組ませる。
- 学習に役立つ情報は随時共有し、それぞれの支援につなげる。



### ④ 個に寄り添った評価をする

褒めることは大切ですが、褒め方やそのタイミングはもっと大切です。

- できていることを瞬時に評価する

【例】今の投げ方は良かった、その調子です！



- 言葉を具体的に褒める

【例】上手に書けていますね → 線が力強くまっすぐに書けていますね。

縄跳び頑張ったね → 二重跳びができるまで毎日練習してえらかったね。

- IメッセージとYouメッセージを使って評価する

【例】Youメッセージ（あなたは）友達の落とした物をいつも拾っていてえらいね。

Iメッセージ（わたしは）あなたの人のためにさっと動けるところ、  
見習いたいと思っているよ。

- すべての子どもにそれぞれの評価をする

- 担任は気になる子に対して、他の子よりも指導や称賛を多くする傾向にあります。いつも先生の言う通りにしているのに、褒められない子はいませんか？  
支援の量は違って、評価は全ての子どもに平等にしましょう。

お話を最後まで  
聞きましたね。



ぼくはいつもちゃんと  
やっているよ・・・

### ⑤ 合理的配慮を行う

一斉の指示や同一の教材では、理解が十分にできない子どもがいます。その場合には、個に応じた合理的配慮を行うことが必要です。

**合理的配慮とは**・・・「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」と定義されています。

◎具体的には、「V こんなときどうする」で紹介しています。

# Ⅳ 子どもを理解するアセスメント

## 1 アセスメントの内容

学級担任が「全体指導の中で個を育てる」ための一つとして、「個の特性と要因を理解する」ことの大切さがあります。そのために、学級担任の見立てだけではなく、校内や外部の専門家の力をかりて、アセスメントを行うことが重要です。 \*アセスメントとは、状態を適切に把握すること

### アセスメントの内容

- 行動観察
  - ・ 授業を受けているとき、休み時間等の様子、友達とのコミュニケーション  
課題への取り組み方
- 知能検査・発達検査
- 家庭の状況
- 成育歴(幼児のとき、下学年のとき)



最も大事にしたいのは、**行動観察** です。共通かつバランスのよい視点で観察をしていくことが大切です。町田市では、「児童のアセスメントシート」「生徒のアセスメントシート」を作成しています。(校務支援システムC4thの書庫にあります)

児童のアセスメントシート		学年 組	氏名
		年 組	
NO	領域	項目	ポイント
1	全学 全般	個別に指導しても理解できなかったり、時間がかかったりする	
2		学級の中で1学年程度またはそれ以上の遅れがある	
3	聞く	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では困難がある	
4		話し手の方を向いてはいるが、だだしく聞き取れていない	
5	話す	自分の思っていることをうまく言えず、言葉につまってしまう	
6		思いつくままに話し、筋道の通った話ができない	
7	学習 場面	音読がただどしどし読んだり、読み飛ばしや読み間違いがあつたりする	
8		自分で読んだ文章の意味を理解できないことがある	
9		平仮名や漢字の細かい部分を書き間違える	
10		特殊音節の表記(拗音、促音、撥音)を間違える	
11	計算 問題	教えたり計算したりするなど、数概念の操作や理解ができない	
12		問題を解くのに必要な計算式を覚えたり、活用したりすることが難しい	
13	推理	長さや量を比較したり、図形を描いたりすることに困難がある	
14		事実から結果を予想したり、結果から原因を推し量ることが難しい	
15	不注意	注意集中が持続しなかつたり、他のことを考えてしまったりする	
16		整理・整頓が苦手である(忘れ物やなくしものが多い)	
17		活動を順序立てて行うことができない	
18	行動 場面	順番を待たたり、指示したことに従ったりすることが難しい	
19		相手の説明や応答を待たずに、しゃべってしまう	
20		かたとなりやすく、衝動的な行動が目につく	
21	多動性	授業中、落ち着きなく身体が動いている	
22		座っているべきときに離席してしまう	
23	対人 関係	しばしばしゃべりすぎたり、はしゃぎすぎたりする	
24		他人の気持ちや考えを察することが難しく、適に合わない言動をとも	
25		視線が合いにくかったり、相手に近付き過ぎたりする	
26	社会 場面	同年齢の子とうまく遊べない、遊びが続かない	
27		言葉のキャッチボールができない(一方的に喋る、応答が正対しない)	
28		言葉の強い方、声量、アクセントなどがきこえない	
29	変化 への 適応	冗談やたとえ話が通じない、誤った解釈をすることがある	
30		行動や気持ちの切り替えがなかなかできない	
31		初めてのことや慣れないこと、急な変更に乗換に对应できない	
32	その他	感覚が過敏だったり、特定の感覚刺激を好んだりする	
33		学習活動や友達とのやり取りで、怖がったり不安をもったりする	
34		対人関係や活動場面において、イライラしたりキレたりする	
35	運動	変容的な理解が得られる	
36		走る、投げる、蹴る、跳ぶなどの動作にぎこちなさが見られる	
37		文房具、用具、楽器などの使い方に不器用さが見られる	

### 多くの目で行動観察を！！

アセスメントシートを学級担任だけで作成していませんか。

子どもと関わりが深い一方で主観も入りやすいです。少なくとも、3人の大人で見るとようにしましょう。

(例) 巡回相談心理士、SC、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員など



## 2 子どもの行動の要因となっていることをつかむ

授業中の行動観察をすると、「離席をしてしまう」「書くことをしない」「聞きもちが多い」など、誰もがすぐに気付く子どもの姿があります。

学級担任の最初の注意で改まらない場合は、次の方法として、「15分経ったら戻ってくるよう約束する」「まずは1行書いて、徐々に増やすよう励ます」「できるだけゆっくり話す」などの支援の工夫をします。しかし、なかなか成果につながらないケースも多く、「有効な手だてを教えてください」という要望はつねに学校から上がってきます。

教師がどんなに情熱と時間をかけて支援しても、子どもの理解が不十分だと、望ましい方向に変容せず、徒労感だけが残ってしまいます。

まずは、「なぜ、この子がこのような行動をとるのか・・・」と立ち止まって考え、その行動の「もと」にある要因をつかむことが重要です。

書くことが苦手な子どもの水面下には、  
どんな要因が隠れているのでしょうか



要因の予想を立てることができたら、それに応じた手だてを設定します。子どもによっては、要因が複雑化している場合もありますので、優先順位の高いものから課題として取り上げましょう。

# V こんなときどうする(個別指導)

ここでは、学級でよく見られる子どもに対して行う合理的配慮をあげています。これらの支援を重ねても改善が見られない場合には、特別な場へつないでいきます。(32 ページ下で説明)

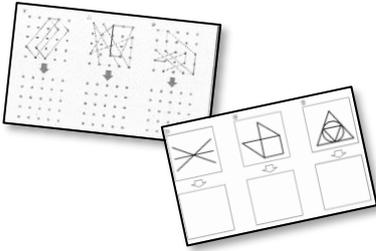
## ケース1 読みが苦手な子ども

様子	「ねっこ」を、「ねこ」と読んでしまう	一文字ずつ途切れる読み方をしてしまう	行を飛ばして読んだり、読み間違えたりする
理由	文字と音を結び付けることが困難 音韻認識(*1)が弱い	言葉をまとまりとして捉えることが困難	細部に目がいかず、形を見分けることが困難 跳躍性眼球運動(*2)が弱い 字がぼやけたり、重なったりして見える
学級でできる支援	<input type="checkbox"/> 50音表やアルファベット表を教室に掲示する。 <input type="checkbox"/> 間違いやすいところに印をつける。 <input type="checkbox"/> 休み時間に、かるたやしりとり等の、音と文字を一致させる遊びをする。 <input type="checkbox"/> デイジー教科書の活用(読み上げ、ルビふり) 	<input type="checkbox"/> 文章に関係のある絵や写真を見せながら読ませる。 <input type="checkbox"/> 休み時間に、かるたやしりとり等の、音と文字を一致させる遊びをする。 <input type="checkbox"/> スラッシュを入れさせたり、まとまりごとにOで囲ませたりする。 <input type="checkbox"/> 教材の文章を分かち書きにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             おばあさんが              おじいさんと              あるところに              むかしむかし         </div>	<input type="checkbox"/> 見本を大きくしたり、字の大きさや色で板書を工夫したりする。 <input type="checkbox"/> 学級で短時間のビジョントレーニングをする。 <input type="checkbox"/> リーディングスリット(*3)を使用させる。 

\*1 音韻認識…言葉を音として捉える力のこと。これが弱いと、例えば、「でんわ」を「でんま」と聞き間違えたり、言い間違えたりする。

\*2 跳躍性眼球運動…眼球の動きの中で、眼を素早く焦点にとばす運動のこと。

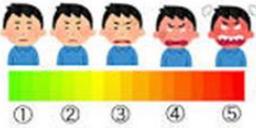
\*3 リーディングスリット…文章の読みたい部分のみが見えるようになっている読書補助具。

<p>様子</p>	<p>文字を思い出すことが困難 似ている音に書き間違える 拗促音が正しく書けない</p>	<p>鏡文字を書く 形の似ている文字を間違う 配置のバランスが取れない 斜め線を含む字が書けない</p>	<p>文字全体のバランスが取れない 枠からはみ出す 点や線の位置や数を間違える そもそも書こうとしない</p>
<p>理由</p>	<p>音韻認識が弱い 眼や耳からの情報の記憶が弱い</p>	<p>視空間認知（*4）が弱い 眼から受けた取った情報を動作につなげる力が弱い</p>	<p>視空間認知、視機能が弱い 手先が不器用である 多動性、衝動性がある</p>
<p>学級でできる支援</p>	<p>□ 50音表やアルファベット表を教室に掲示する。 □ 写す部分を色チョークで囲む。 □ 全体で手拍子に合わせた拗促音の読み練習を行う。 □ 「音、イメージ、書き」をセットで言葉を教える。 □ 板書を端末で撮影させる。</p> 	<p>□ 罫線やマスのあるワークシートを用意する。 □ へん・つくり別カードを使って、ゲーム感覚で漢字クイズを行う。 □ 使いやすい文房具を使用させる。 □ 提出物は PC で提出してもよいこととする。 □ 視空間認知を養うプリントを行う。</p> 	<p>□ 漢字は、丁寧に 1 回だけ書かせる。 □ 細かい点を注意しすぎず書こうと努力していることを認める。 □ ワークシートを用いて、書く量を調節する。 □ 写す部分を色チョークで囲む。 □ 「持ち物→も」のように文字を簡略化して文字数を減らす。</p> 

\*4 視空間認知…目から入った視覚の情報を処理し、空間の全体的なイメージをつかむための機能。文字や形、色、大きさ、ものとの距離感や奥行きなどを把握するときに使われる。

# 集中が続かない子ども

<p>様子</p>	<p>授業中、まったくやる気を見せない</p> <p>授業中寝ている</p>	<p>今、どこをやっているかわからず、みんなからおいていかれてしまう</p>	<p>刺激に流され、そちらに注意が向いてしまう</p>
<p>理由</p>	<p>集中が持続しない</p> <p>動機づけの弱さ</p> <p>授業内容が理解できない</p>	<p>注意を向けるべきところに向けられない</p> <p>状況を理解する力が弱い</p> <p>指示を聞き逃す</p>	<p>刺激に反応しやすいがある</p> <p>多動性、衝動性がある</p> <p>姿勢を保てない</p> <p>興味関心の偏りがある</p>
<p>学級でできる支援</p>	<p><input type="checkbox"/>参加できる、動きがある活動を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/>導入部で活躍させることで参加意識を高める。</p> <p><input type="checkbox"/>明確な指示をする。</p> <p><input type="checkbox"/>本人の体格に合った机と椅子を選ぶ。</p> <p><input type="checkbox"/>よくできている場面を見逃さず、すかさず認める。</p> <p><input type="checkbox"/>本人と約束をする場合には、「ポジティブな行動」を目標にし、できたらほめる。→少しずつできる量を増やしていく。</p> <div data-bbox="263 1780 454 1948" style="border: 1px solid pink; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>いいね。その調子で続けましょう。</p> </div> 	<p><input type="checkbox"/>黒板の周辺などの掲示物を整理する。</p> <p><input type="checkbox"/>黒板を構造化して、マーク等を使って、「今、ここ」をわかるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>今、開いているページをスクリーンに映す。</p> <p><input type="checkbox"/>目を合わせてから話すようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>短く整理して伝える。</p> <p><input type="checkbox"/>ルールを示した貼り紙をしたり、注意を適切なものへ向かせたりする。</p> <div data-bbox="678 1769 1013 2027" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>この時間にすること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① <b>プリントを1枚やる</b> ・終わったら、前の机に出す</li> <li>② <b>メッセージカード</b>を後ろのたなからとり、6年生にお手紙を書く。</li> <li>③ <b>先生に見せる。</b></li> <li>④ 時間は……</li> <li>⑤ <b>〇</b>をもらったら、あいているところに<b>絵をかく。</b></li> </ol> </div>	<p><input type="checkbox"/>教室内で刺激になるものがあれば取り除く。</p> <p><input type="checkbox"/>活動の内容、時間の見通し、進行状況を伝える。</p> <p><input type="checkbox"/>座席は窓側や通路側を避けて、教師の近くにする。</p> <p><input type="checkbox"/>動きのある活動を適宜入れる。</p>  <div data-bbox="1093 1736 1372 1881" style="border: 1px solid pink; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>となりと相談して答えが出たらすわります。</p> </div> 

<p>様子</p>	<p>ちょっとしたことでキレル</p>	<p>突然パニックになる</p>	<p>後先考えず、感情的な行動をしてしまう</p>
<p>理由</p>	<p>衝動性がある 触覚防衛反応(*5)が強い</p>	<p>見通しがもてず不安になってしまう</p>	<p>感情の未分化 ネガティブ感情の語彙が少ない(くやしい、わからない、いらいらするなど) 実行機能(*6)の弱さがある。</p>
<p>学級でできる支援</p>	<p>□ サポートルームで活用している「怒りの温度計」(*7)を使ってクールダウンの方法を確認しておく。</p>  <p>□ 刺激量を調整する。</p> <p>□ キレルきっかけを振り返り、次にそれが起きたときにどうするのかを教師と共有しておく。</p> <p>□ キれていない場面に目を向けて褒める。</p>	<p>□ 活動の見通しを示す。</p> <p>□ 急な変更は早めに知らせる。</p> <p>□ パニックになるきっかけを振り返り、起こりにくい環境をつくる。</p> <p>□ 安心ワードや安心場所を見つけ、クールダウンさせる。</p> 	<p>□ 感情カード等を使用し、感情の流れを視覚化して振り返ることで、相手の気持ちも考えさせる。</p> <p>□ 感情的になる場面を本人と振り返り、受け止め方や伝え方について教師と共有する。</p> <p>□ 感情的になった場面で、教師が言語化する。</p> 

\*5 触覚防衛反応…人の基礎感覚の一つである触覚の「原始系」の反応のこと。触れられることをいやがる、苦手な触感の物を吐き出すなどの反応がある。

\*6 実行機能…取り組む意思を持ち、計画を立て、最後までものごとを完了する力。その際、最初から最後まで自分の行動を見て、効果的になるよう行動を調整する。

\*7 怒りの温度計…怒りの感情に対して適切にコントロールするためのツールの一つ。自分の怒りを段階に分けて可視化し、どのような状況でどこまで上がってしまうかを捉えられるようにする。

<p>様子</p>	<p>提出物があったことを忘れる 提出物等を持って帰ったり、保護者に渡したりすることを忘れる 提出物を家に忘れてしまう</p>	<p>やりたいことを優先してしまい、やる時間が無くなってしまう</p>
<p>理由</p>	<p>短期記憶が苦手 注意・集中を持続できない</p>	<p>実行機能が苦手 提出物を出すことに意味を感じない 優先順位をつけられない</p>
<p>学級でできる支援</p>	<p><input type="checkbox"/> 帰りの会で、チェックリストをもとに全員で持ち物を確認することを繰り返し、「確認するスキル」の習慣化を目指す。</p> <p><input type="checkbox"/> 持ち物をメモさせて、担任がサインをする。家にお手紙ケースを用意してもらい、翌日の準備が終わったら、そこにメモを入れるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 明日の持ち物が書いてある黒板を端末で撮影させる。</p> <p><input type="checkbox"/> ファイルを活用して管理する。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者と持ち物チェック方法を共有し、自分からできたら褒める。</p> 	<p><input type="checkbox"/> 時間割そろえる習慣づけをする。</p> <p><input type="checkbox"/> TO DO リストを作り、優先順位の高いものから先に済ませるように計画させる。出来たら線を引かせる。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画通りにできたら、カレンダー表にシールを貼ってもらえる等、ご褒美を励みに実行させる。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭での様子を保護者と共有し、本人への向き合い方について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>11/12(月) To Do リスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 英語ワーク</li> <li>2 漢字テスト</li> <li>3 理科調べ</li> <li>4 ゲーム</li> </ol> </div>

様子	いかなる時でも、自分が正しく相手が悪いと考える。	なぜ周りから、引かれるのかわからない。	予定通りに事が進まないと怒りだす。
理由	他者の視点になって考えることが苦手である  こだわりが強い	想像性の苦手さがある	こだわりが強い  見通しをもてず不安である
学級でできる支援	<p>□対人面のトラブルの指導では、周囲からの情報を集めた上で、個別に本人と話をする。その際は、本人の思いを尊重しながら、問題の解決方法を具体的に提示していく。また、事実と思い込みのズレがある場合には、「先生はこう思うのだけど、どうかな」などと、すり合わせを行う。</p> <p>□うまくいった関わり方などをまとめておき、次の問題場面が生じた際に活用する。</p>	<p>□大人が他者の気持ちを代弁して、いろいろな考え方があつて共有する。</p> <p>□相手がどう思うか、自分がどういう言動をとればいいのかについてイメージしやすいように視覚化する。</p> <p>□事前に具体的な場面を想定して、具体的な解決策を一緒に考える。</p>	<p>□活動をタイマーで切り替えていく練習をする。</p> <p>□行事の際には、雨日程、晴れ日程などの代替案を事前に提示する。</p> <p>□切り替えがよかった時やいつもより早く切り替えられた時にすぐに褒める。</p> <p>□自分で決められない場合には、やれそうなことを選択肢として提示する。</p>



### 特別な場へつなぐ

行動問題の背景には、様々な要因があります。ここで挙げた例を参考に、いろいろ手を尽くしても改善が難しいときは、サポートルーム等につなげていくことも必要です。

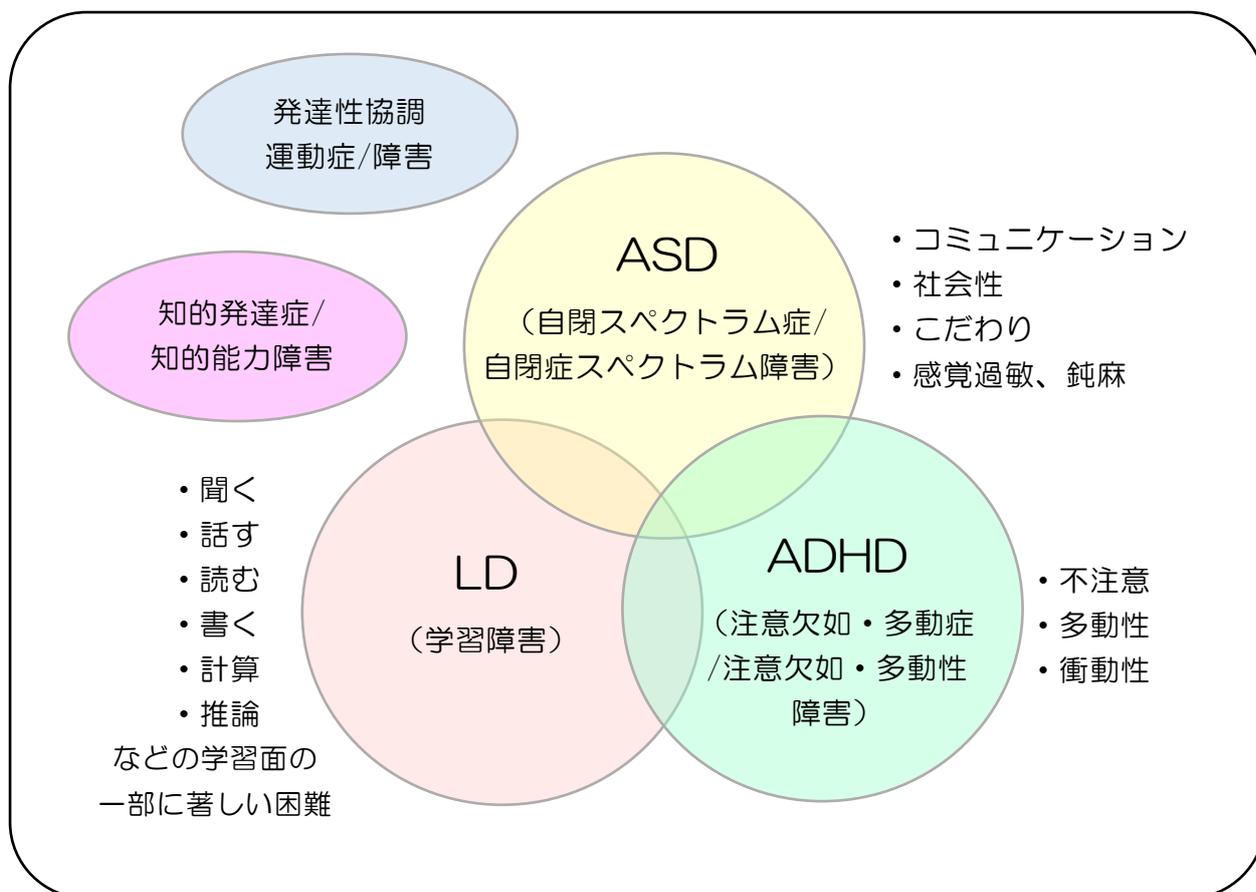
- 1 校内委員会につなげる。
- 2 巡回相談心理士、教育センター特別支援教育アドバイザーにつなげる。
- 3 関係機関につなげる。
- 4 サポートルームにつなげる。

# VI 障がい特性と知能検査の理解

## 1 3つの発達障がい

特性の背景に、発達障がいがある場合があるので、理解をしておくことが大切です。

発達障がいは、多様な機能を司る脳の働きに何らかの障がいがあることが原因であると言われています。発達障がいには、主に、ASD、ADHD、LDがあり、それぞれの特性は重なりあっている場合も多いです。



### 目立つ障がい特性に引っ張られないようにしましょう！

授業中にすぐに席を立ってしまったり、教師が説明しているときに突然何かを言いに来たりする……。すると校内委員会で、ADHDの傾向が強い子として共通理解されていくことがあります。

しかし、実は、その子のおおもとに、ASDが隠れているということがあります。目立つ特性に引っ張られないように、子どもの言動を細かく観察していきましょう。



## 2 障がいによる要因の違い

見える行動が同じであっても、その子によって要因が違う場合があることを、3つの障がいを例にとって紹介します。行動の背景を理解することで、その子にあった対応を考えることができます。

### <例> 教室を飛び出す



2年生のAさんは、授業中、突然席を立て、教室の外へ出て行ってしまいます。Aさんの安全を確保しなければならないし、ほかの子たちも動揺します。授業を進められないことがしばしば……。多動傾向が強いのですが、どうすればこの特性を抑えられるのでしょうか。

“目立つ行動、障がい特性”に引っ張られていませんか？  
Aさんの普段の行動を観察し、もしかしたらこうかも？と考え行動の背景を広い視野で予想してみましょう。



#### ASD

- 大きな音が聞こえたり、急な予定変更があったりして不安が強くなり、その場にいられなくなる。
- 関心がないことは、先生の話や聞く意識がもてない。
- 授業内容に興味がなく、自分の取り組みたいことをしたくなる。

#### ADHD

- 集中力が続かない。ほかのことが気になる。
- 単調な作業の連続や、同じ姿勢の維持が苦手。
- 授業内容がわからなくて、落ち着かず身体が動いてしまう。
- 身体を動かしたくなる。

#### LD

- 授業内容がわからない。
- 読む、書くことが負担でイライラする。
- 作文で何を書けばよいかわからなくて困っている。
- 数の大小や、量の多少の違いがわからない。指を使わないと数えられなくて、時間内に課題が終わらないから辛い。



なるほど！今日は、図工が国語に変更になりました。そういえば、先週も授業が変更になったとき、落ち着きがなくなり、教室を出ていきました。集中の持続も難しく、思いついたらすぐに話したり、行動したりすることもあります。もしかして、ASD、ADHDの特性があるのかも？

行動の背景の理解が進んでいますね。



### 3 知能検査・発達検査



検査については  
私が解説します。

#### (1) 町田市が実施している検査

知能検査・発達検査は、子どもの発達の状態や特徴を、様々な視点から客観的にアセスメントすることができます。子どものつまずき（課題、主訴）の能力的な原因を知り、生活の工夫や学校での支援を検討するために活用します。

#### 町田市教育センターで実施している3つの検査

- 知能検査 □WISC-Ⅳ（WISC-Ⅴを今後導入予定）  
□田中ビネー知能検査Ⅴを実施（WISC-Ⅳの実施が難しい場合）  
発達検査 □新版K式発達検査2020 ⇒ 就学相談会に向けて

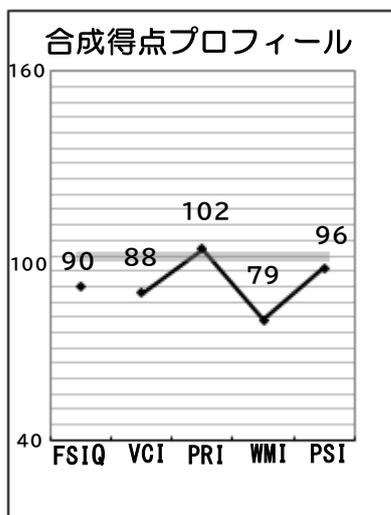
**重要!**

知能検査・発達検査は・・・

- ★発達障がいがあるかどうかを調べる検査ではありません。障がいの有無の診断は医師が行います。
- ★読み書きや社会性、コミュニケーションスキル、感情調整などは測定できません。
- ★なぜ検査が必要なのか、保護者に検査の話をする前に、もう一度考えてください。

#### (2) 検査の読み取り方 「WISC-Ⅳって何がわかるんですか？」

<Bさんの場合>



検査結果が学校にきたけれど  
どう読み解くかわからないな。

そうですね。これから、  
簡単な解説をするから  
大丈夫ですよ。



	合成 得点①	パーセン タイル②	信頼区間 90%③	分類④
全検査(FSIQ) ⑤	90	25	85-96	平均の下-平均
言語理解(VCI) ⑥	88	21	82-96	平均の下-平均
知覚推理(PRI) ⑦	102	55	95-109	平均-平均
ワーキングメモリ(WMI) ⑧	79	8	74-88	低い(境界域)-平均の下
処理速度(PSI) ⑨	96	39	89-104	平均の下-平均

## WISC - IV Q&A

### Q1 WISC - IVの表に書いてある用語はどのような意味ですか？



表やグラフの用語って、  
どういう意味なの？

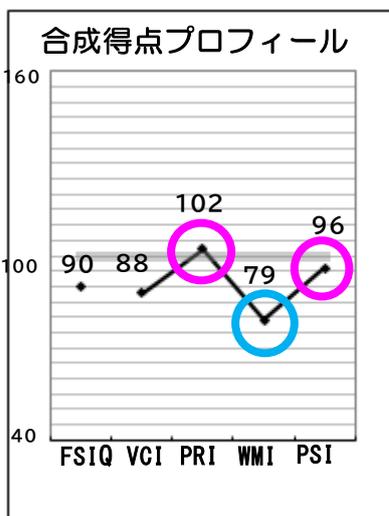
まず、用語の意味を  
説明します。



- ① 合成得点：知能指数 (IQ)。同年齢の平均 (100) から、どの程度離れているのかを示す。
- ② パーセンタイル：同年齢集団の中の子どもの位置。ある得点の下に何%の子どもが位置しているかを示すもの。通常1～99の範囲。平均値・中央値は50。
- ③ 90%信頼区間：誤差も考慮した得点の範囲。
- ④ 分類：信頼区間の合成得点を分類したもの。

	どのような能力を測っているのか
⑤ 全検査 IQ (FSIQ)	・ 全般的な知的能力の水準 (位置)
⑥ 言語理解 指標 (VCI)	・ 語彙力 ・ 言葉による説明力 ・ 言葉で理解し考える力 ・ 常識的な社会的知識 ・ 文章を読解する力
⑦ 知覚推理 指標 (PRI)	・ 見て理解し考える力 ・ 見たものから推理、応用する力 ・ 形や空間を捉える力 (図形、文字、整理整頓など)
⑧ ワーキングメモリー 指標 (WMI)	・ 聞いたことを一時的に記憶する力 ・ 聞いたことを整理する力 ・ 注意、集中する力 ・ 同時に複数の作業を行う力 ・ 暗算、暗唱、音読、丸暗記
⑨ 処理速度 指標 (PSI)	・ 単純な作業を素早く正確に行う力 ・ 単調な作業に集中や意欲を保ち続ける力 ・ 見て書く ・ 要領、段取り、手際によさ

### Q2 各指標の合成得点にずいぶん差がありますが、どういうことですか？



全検査 IQ は90だから年齢相応だね。  
ワーキングメモリーと、知覚推理や  
処理速度とは、ずいぶん開きがあるな。  
どうしてだろう？

この児童の場合は、  
知覚推理 (PRI)、処理速度 (PSI) が得意  
ワーキングメモリーが (WMI) が苦手  
ということに注目しましょう！！





ワーキングメモリーに苦手さがあるんだ。  
聞いて覚える力が弱いから、指示の聞き逃しが多いのね。  
それで、学習が積み重なりにくいのかしら。  
IQ79ってどれくらい苦手なの？

④合成得点の分類

130以上	非常に高い
120~129	高い
110~119	平均の上
90~109	平均
80~89	平均の下
70~79	低い（境界域）
69以下	非常に低い

IQが79以下の場合は、  
日常生活や学習で困り感を抱えて  
いる可能性があります。  
適切な支援が必要です。



Q3 まずは、苦手なことへの改善や克服に取り組めばよいですか？

それも大切ですが、困り感や困難さを改善するに  
は、児童のよいところも知ることが大切です！  
得意なこと・苦手なことの両方を理解することで、  
支援のアプローチが見えてきます。



なるほど・・・  
得意なことは、見る力と作業の力ね。  
確かに、図形問題は得意だし、給食当番や掃除当番は  
率先して取り組んでいるなあ。



聞く、集中する、聞く+書くなど複数の作業を同時に  
するのが苦手だったんだ。  
だから、指示を理解することが難しかったり、板書が  
遅かったりするのさ。ぼーっとしていることもある。  
怠けているわけじゃなかったんだ！

そうです！特性から生じていたのです。  
いつも、苦手なことだけでなく、得意なこと  
も、注目する習慣をつけましょう！

保護者とも、得意なことや苦手なことの  
両方を共有していきましょう。  
保護者も気持ちが高まって、担任との信頼関係  
が高まります。



#### Q4 特性にあった具体的な支援方法を教えてください。

まずは、どんなことができそうか、アイデアを出していきましょう。  
これまでの指導の経験も思い出してみましょう。



まずは、聞きやすくする支援だ。  
席を前の方にしてみよう。  
言葉は短く、シンプルにかな。  
これまで、自分の話は長かったな・・・



得意な見る力を活かして、予定表は黒板に貼っておこう。写真や端末も使えそう。もし、作業の途中でわからなくなってしまっても、見て確認できる！



その調子！  
苦手なことの支援には、得意なことを活かすこともできます。



聞きやすくする支援は、クラス全員にとっても、授業に取り組みやすくする支援となり、とても有効です。他には、「書く」と「聞く」の活動の時間を分けるという工夫もあります。このように、それぞれの子どもの得意、苦手を理解することで、関わり方や環境の整備を行うことができます。検査結果をプラスに活かしていきましょう。



#### 検査結果を活かすには

また検査結果がきたけれど、この間、見た子とは違う結果だ・・・  
この子の場合は、どう読み取って、支援につなげればよいのだろう。

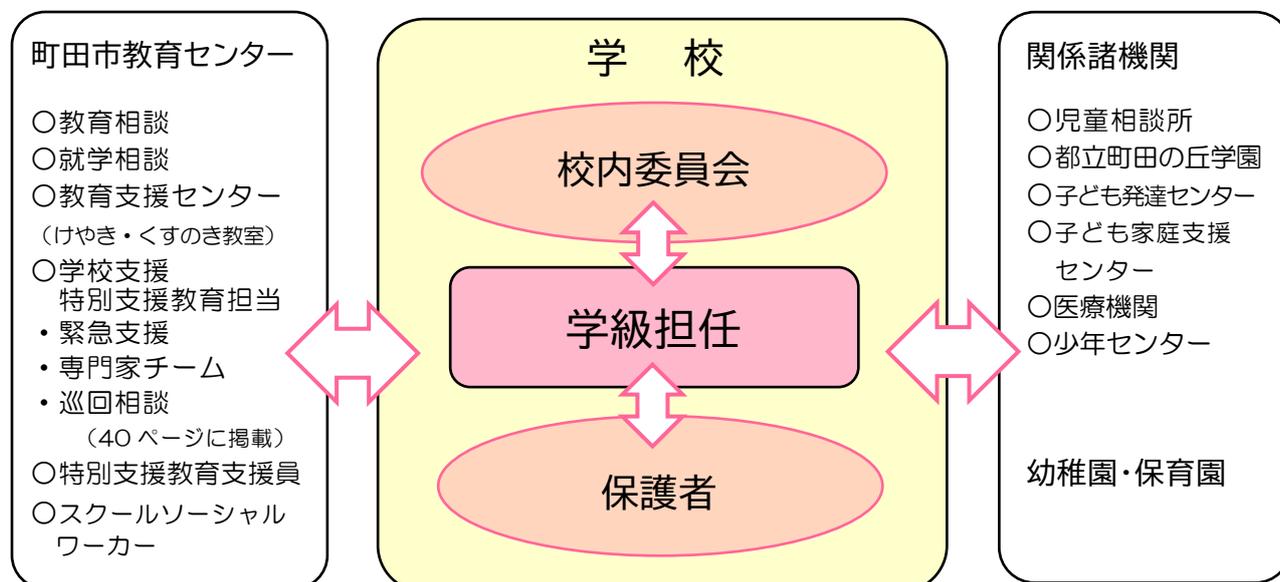


人は一人一人違うように、検査結果も子どもによって様々です。支援も数多くあります。検査の読み取りや支援方法で悩んだ際は、サポートルーム・特別支援学級教員、特別支援教育コーディネーター、SC、巡回相談心理士にアドバイスを求めましょう。このハンドブックもぜひ活用してください。



## VII 学級担任等が行う望ましい連携

学級担任が、学級に所属するすべての児童・生徒を大切にする授業や学級経営をしていくためには、一人で抱え込むことなく、他の支援を適切にかかりていく必要があります。



### 1 校内委員会の活用

#### 支援レベル1の段階で専門家の力をかりましょう

気になる子への支援の方法も含め、授業中の手だてが有効に働いているかどうかについては、できるだけ早い段階で、専門家からの助言を受けましょう。

##### <校 内>

###### 【巡回相談心理士】

- ・対象の子どもの行動観察、アセスメントや指導方法への助言、特別な指導・支援の必要性についての助言等を依頼できます。
- ・概ね月1回4時間（年間40時間）の来校なので、学級担任は事前に特別支援教育コーディネーターに要望する内容について相談しておきましょう。

###### 【東京都スクールカウンセラー】

- ・子どもを取り巻く環境や子ども自身の特性から起きる問題行動、子どもが抱える心理的な課題などについて相談できます。カウンセラーに直接、子どもや保護者と面談してもらうことで、問題解決へのアプローチが広がります。
- ・毎週決まった曜日に1日いるので、放課後の相談や継続的な連携が可能です。

※町田市では、市のカウンセラーも指定中学校へ週1日配置しています。

## <町田市教育センター>

### 【緊急支援】

- 町田市特別支援教育アドバイザー及び専任相談員が、行動観察や担任等への聞き取りを通して、子どもの特性や関わり方のポイント、授業の中でできるUDや合理的配慮などについて助言をします。
- 必要時に、管理職を通して町田市教育センターのアドバイザーに連絡をください。

### 【専門家チーム】

- 町田市教育センターに講師として登録している専門家（2名）が、学校が希望した日に訪問し、行動観察をします。その後、担任、学校関係者が参加する協議会をもち、子どもへの支援方法について助言をします。
- 事前の文書による申し込みと、資料の提出が必要です。

### 【巡回相談】

- 町田市教育センター巡回相談員（1名）が、学校の要請に基づき、子どもの行動観察と学級担任等への助言をします。
- 事前の文書による申し込みと、資料の提出が必要です。

## 校内委員会で、支援の必要性を検討してもらいましょう

校内委員会は、子どもの問題や課題を学校全体で共有し、全校的な支援体制について決定していくところです。支援レベル1の段階で校内委員会を活用することが、支援の質を上げていくことにもつながります。

### <校内委員会>

- 対象児童・生徒への支援方策の検討
- 学校生活支援シートや個別指導計画の作成
- 支援の内容や方法についての評価
- 専門家への依頼や、他機関との連携についての検討
- 全教職員で共通理解する内容や依頼することの検討

特別支援教育コーディネーターに相談し、事前に、該当の子どもについてのアセスメントシート、学習・生活の実態、保護者の理解状況などについてまとめておくといでしょう。



## 2 保護者との連携

### 適切な支援には、保護者との協働が必要です

保護者は、家庭の中では子どもとの関係性が成り立っているため、学校生活における子どもがつまずきや困り感に気付けないことがあります。また、なんとなく気付いてはいるけれど、それらを認められなかったり、どうしたらよいのか困っていたりする場合があります。

学級担任は、このような保護者の心情を察して、寄り添って話を聞き、それぞれができる支援を一緒に考えていく姿勢をもつことが必要です。

#### ●初めて保護者と話すとき、こんな風に言ったことはありませんか？



「お子さんのことで、みんなが（私が）困っています。」  
「検査を受けてみたらいかがですか。」とパンフレットを渡す。  
「サポートルームに行くと本人にとっても良いと思います。」  
「支援学級を見学してみませんか。」  
「病院で発達専門の医師にみてもらってはどうか。」

え!?



たとえどんなに学校で困っていても、いきなりこのように言われたら、保護者は警戒し、心を閉ざしてしまいます。ときには、怒りが表出されることもあります。

#### ポイント

#### ●まずは、担任として子どもの味方であることを伝えましょう。

子どもの存在を受け入れているという姿勢を示すことが大切です。

学校公開や行事のときに、担任から声をかけてみましょう。連絡帳に書くこともできます。



先生、うちの子のいいところを見てくれている。今度、Aのことを相談してみようかな。

Aさん、毎日鉄棒を練習して、前まわりができるようになったんですよ。

Aさんを気にかけていることを時々伝えるぞ。

#### ●面談では、学校と家庭でそれぞれできそうなことを確認しましょう。

見通しを確認  
面談内容・面談時間

来校してくれたことへの感謝を伝えましょう

情報を共有  
学校・家庭

まず、保護者の話に寄り添い、共感的に聞きます

今後の情報共有や  
手だてを確認

適切な支援のために、継続的な協働を行います

子どもが少しでも安心して生活し、社会性を身に付けながら伸び伸びと成長していけるように、学校と保護者が信頼関係を保ち続けることが重要です。

<注釈>

<p>※1 令和4年度の 文部科学省の調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省が実施した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」のこと。全国の公立の小・中・高等学校の通常の学級に在籍する児童・生徒について、学級担任等が記入したものである。</li> <li>内容は、「Ⅰ児童生徒の困難の状況」「Ⅱ児童生徒の受けている支援の状況」となっている。</li> </ul>
<p>※2 町田市発達支援ルーム</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常の学級に在籍し、学習活動や学習意欲等につまずきがありながら、通級などの特別な教育的支援を受けていない児童に対して、教育センター担当者2名が学校に出向いて支援を行っている。</li> <li>週1回1単位時間、15回程度、上限は6名で、ビジョントレーニングや感覚統合運動を中心に学習の土台づくりをする。</li> <li>児童の取組状況や自己肯定感の向上とともに、保護者の参観時の面談を通じ、適正就学への実績も上がっている。</li> <li>2021年度から小学校を対象に開始した事業で、2023年度は10校の申込みがあり、4校で実施した。</li> </ul>
<p>※3 町田市特別支援教育 ハンドブック</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度に町田市教育センターで作成し、町市内全教員に配布した特別支援教育関係の初めての冊子。この1冊を読めば、特別支援教育のねらい、概要、教員として行うべき指導・支援の内容、校内支援体制等について理解ができるものになっている。</li> <li>毎年、この冊子を活用した学校訪問研修を実施している。冊子のデータを端末の書庫に入れ、町市内の教員がいつでも印刷可能な状態にしている。</li> <li>都内各自治体に配布した。町田市ホームページには掲載していない。</li> </ul>
<p>※4 授業リーダー制度</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の2つをねらいとして、2019年度から開始した事業。             <ol style="list-style-type: none"> <li>町市内で特別支援教育のモデル授業を展開できる教員を発掘及び育成する。</li> <li>授業公開や研修会での実践発表を通じ、校内及び町市内の特別支援教育の授業力の向上につなげる。</li> </ol> </li> <li>募集枠は、小中学校のサポートルーム教員、特別支援学級教員、通常の学級担任・教科担任。</li> <li>年間3回の研究授業を行い、2回は市内に公開する。</li> <li>毎年8名程度の授業リーダーが研鑽を積んでいる。</li> </ul>

<p>※5 アンケート調査</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査項目については、以下のものを参考として設定した。</li> <li>①町田市特別支援教育ハンドブック（2020年版）のP17からP20までに記載した、通常の学級において授業者が行う具体的な取組。P21の授業振り返りシートの項目。</li> <li>②他県、都内区市町村が作成している、授業におけるユニバーサル・デザインの評価項目、関連する書籍の中で共通に取り上げている視点など。</li> </ul>
<p>※6 ユニバーサルデザイン</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1985年 アメリカノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス氏が提唱した考え方。</li> <li>・使う人に必要な情報がすぐにわかる、使い方が簡単にわかる、少ない力で効率的に使えるなど、あらゆる人にとって使いやすいデザインのことを言う。「バリアフリー」が、障がいのある人の困難を解消するための考え方であるのに対し、「ユニバーサルデザイン」は障がいのあるなしにかかわらず、あらゆる人にとって使いやすいという考え方になっている。</li> </ul>
<p>※7 マルチメディアデジ ー教科書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチメディアデジター教科書は、公益財団法人日本リハビリテーション協会が提供する音声教材。</li> <li>・通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、テキストに音声をシンクロ（同期）させて読むことができるものである。ユーザーは音声を聞きながらハイライトされたテキストを読み、同じ画面上で絵をみることもできる。</li> <li>・児童・生徒に貸与されている端末や家庭でも使用することができる。利用を希望する際には、教育センターに連絡する。</li> </ul>



町田市特別支援教育ハンドブック  
— 学級担任・教科担任向け版 —

---

発行年月 2024年3月  
発行 町田市教育委員会 学校教育部 教育センター  
町田市木曽東3-1-3  
電話 042-793-2481  
刊行物番号 23-79  
印刷者名 株式会社 アイ アール エス

# MA CHI DA

